

テーマ：経営資源の保護

タイトル：有田焼の伝統を災害から守る匠の技



水害

ポイント

- 水害を最小限に留めるブロック塀の増設と止水版・排水ポンプの設置
- 製品の安定供給を継続する社内体制の構築

BCP策定のきっかけ

- 当社は、有田焼の生地製造企業（生地屋）で、陶磁器の原料となる陶土を成形し、乾燥して仕上げた「生地」を製造して窯元に提供している。
- 陶土の供給（陶土屋）から成形の型作り（型屋）、生地製造（生地屋）、窯元、商社と分業体制を敷く有田焼の製造工程において、サプライチェーン上の重要な役割を担っている。
- 有田町は、住民の3割が窯業従事者とその家族であり、有田焼が地域の基幹産業であることから、当社の生地供給がストップすれば地域住民の生活に大きな影響が生じる。
- このような中、令和元年の佐賀豪雨により近くの用水路が氾濫し、陶土を器の形に成形する石膏型が水没する被害が出て製造の一部に支障が出た。
- 佐賀豪雨をきっかけとして、生地の安定供給、早期の再開など事業継続の必要性を会社全体でとらえ、BCPを策定することとした。

BCP策定時の課題と解決方法

- BCPの策定にあたり、自然災害等の発生が事業活動に与える影響について、当社にとって最も懸念されるものが何であるのか、その検討に時間を要した。
- 事業拠点は佐賀県武雄市にあり、武雄市ハザードマップによると、危険溪流に指定されている地域であり、例年、年に数回、台風が通過していることから、豪雨による浸水が事業活動に与える影響が最も大きいものであると想定して浸水対策のBCP策定とした。
- 近くの用水路の幅が狭く豪雨の際に水が溢れ工場内に浸水する恐れがあったため、浸水対策を当社独自で行う必要があった。
- 自然災害等が発生し、従業員の出勤が困難な場合などに備え、生地の継続的な供給を行うための人員体制の整備が必要であった。
- 独自対策等について、社内で検討会議を行い、浸水対策として、ブロック塀の増設と、止水版・排水ポンプの設置、社内体制として、社員の多能工化を決定した。

【会社概要】

企業名：辻製陶所
所 在：佐賀県武雄市山内町宮野26420-1
出資金：－
従業員数：7名
業 種：窯業・土石製品製造業
組合HP：－

策定した内容

- 浸水に備えるため、用水路と工場間のブロック塀の増設、工場に止水版を2箇所、排水ポンプを1箇所設置している。
- 継続的な社員の多能工化を進め、生地製造の全工程において常にサブがいる人員体制を整えている。

策定後の効果

- 令和元年の佐賀豪雨以降に浸水は発生しておらず、安定した生地製造を行っている。
- 当社の取組が地域の同業者等の見学の場となるなど防災意識の高まりの契機となっている。
- 佐賀県小規模事業者事業継続力強化支援補助金を活用して生地の乾燥機を購入し、更なる安定供給に努めている。



ブロック塀増設（白部分）



止水版



排水ポンプ



石膏型



石膏型倉庫

活用施策

- 事業継続力強化計画
- 佐賀県小規模事業者事業継続力強化支援補助金（災害型）

低コスト／低労力による取組

BCP策定を通じた信用力向上

経営資源の保護

人材育成

外部連携による取組